

3 小学校各教科の調査結果の概要及び今後の指導について

(1) 国 語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—	
話・聞	：話す能力・聞く能力
書 く	：書く能力
読 む	：読む能力
言 語	：言語についての知識・理解・技能

(◇：「活用」に関する問題)

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	活用	評価の 観 点	設定通過率 (%)	通過率 (%)	
A話すこと・聞くこと (1)3・4年エ	1	一 話の中心に気を付けながら、話の内容を聞き取ることができる。		話・聞	85.0	89.9	
A話すこと・聞くこと (1)3・4年オ		二 司会者の役割を理解しながら、話の内容を聞き取ることができる。		話・聞	75.0	83.3	
A話すこと・聞くこと (1)3・4年アエ		三 関心のある話題を選び、考えや感想を述べるができる。	◇	話・聞	65.0	85.1	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)3・4年ウ(イ)	一	(1) 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。		言 語	80.0	99.5	
		(2)		言 語	85.0	98.9	
		(3)		言 語	70.0	93.9	
	二	(1) 前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くことができる。		言 語	75.0	78.0	
		(2)		言 語	75.0	71.0	
		(3)		言 語	70.0	78.1	
	(2)3・4年イ	三	筆順に従って文字を正しく書くことができる。		言 語	60.0	32.2
(1)3・4年ウ(ア)	2	(1) 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くことができる。		言 語	70.0	72.9	
		(2)		言 語	65.0	49.3	
(1)3・4年イ(ク)	五	(1) 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うことができる。		言 語	85.0	87.3	
		(2)		言 語	85.0	96.0	
(1)3・4年イ(オ)	六	語句には性質や役割の上で類別があることを理解している。		言 語	75.0	72.9	
(1)3・4年イ(キ)	七	(1) 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な内容を理解している。		言 語	75.0	69.8	
		(2)		言 語	50.0	41.4	
C読むこと (1)3・4年ウ	3	一 登場人物の気持ちについて、叙述をもとにして想像しながら読むことができる。		読 む	60.0	59.4	
C読むこと (1)3・4年ウ		二 登場人物の境遇について、叙述をもとにして想像しながら読むことができる。		読 む	60.0	85.4	
C読むこと (1)3・4年ア		三 場面の様子がよく分かるように音読することができる。	◇	読 む	70.0	89.5	
C読むこと (1)3・4年ウ		四	ア 登場人物の人物像について、叙述をもとにして想像しながら読むことができる。	◇	読 む	60.0	57.5
C読むこと (1)3・4年ウ			イ		◇	読 む	65.0
C読むこと (1)3・4年イ	4	一 目的に応じて、中心となる文をとらえて文章を読むことができる。		読 む	65.0	41.2	
C読むこと (1)3・4年エ		二	A 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、要約することができる。	◇	読 む	60.0	47.7
			B 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて文章を読み、要点をまとめることができる。	◇	読 む	65.0	49.3
			C		◇	読 む	65.0
C読むこと (1)3・4年カ	三	目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むことができる。	◇	読 む	55.0	39.0	
B書くこと (1)3・4年アイウ	5	相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を収集したり、選択したりして書くことができる。書くこととする事の中心を明確にして書くことができる。	◇	書 く	50.0	55.4	

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内					
				青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡		
1	一	話し合いの内容	85.0	90.6	90.6	91.6	87.3	89.4	86.4	85.8	
	二	司会者の役割	75.0	84.6	84.7	83.1	80.7	81.3	83.3	78.5	
	三	自分の考え	65.0	84.7	84.4	90.3	85.8	84.1	88.4	86.0	
2	一	(1)	「観察」の読み方	80.0	99.4	99.3	100.0	99.4	99.8	100.0	98.5
		(2)	「相談」の読み方	85.0	98.6	98.6	98.7	99.1	99.4	99.7	98.5
		(3)	「告(げる)」の読み方	70.0	93.0	93.5	84.4	96.8	98.4	95.9	95.6
	二	(1)	「じゅうしょ」の書き方	75.0	80.6	81.3	70.1	75.8	77.3	76.5	73.8
		(2)	「けんきゅう」の書き方	75.0	72.7	73.3	62.3	66.8	65.3	73.5	64.4
		(3)	「はか(る)」の書き方	70.0	78.1	78.3	74.7	75.4	76.7	70.1	77.3
	三		「希」の筆順	60.0	35.6	36.3	24.7	41.5	39.6	34.7	47.7
	四	(1)	ローマ字「kyûri」の読み方	70.0	72.3	73.1	59.1	74.8	75.7	77.6	72.3
		(2)	「はなび」のローマ字での書き方	65.0	48.8	48.9	46.1	56.9	62.4	54.4	52.7
	五	(1)	接続語「しかも」の適切な使い方	85.0	86.5	87.0	77.3	88.4	89.4	88.8	87.3
		(2)	接続語「だから」の適切な使い方	85.0	95.6	95.9	89.6	97.4	98.2	97.6	96.5
	六		語句の適切な意味	75.0	72.3	72.1	76.6	71.1	75.3	69.4	67.7
	七	(1)	主述の関係	75.0	68.4	69.8	44.8	70.7	80.1	69.4	61.7
		(2)	修飾と被修飾の関係	50.0	38.1	38.8	26.6	46.3	55.0	41.8	40.0
	3	一	叙述を基に想像した読み取り(登場人物の気持ち)	60.0	58.9	59.3	52.6	58.7	67.7	51.0	54.2
二		叙述を基に想像した読み取り(登場人物の境遇)	60.0	84.6	84.8	80.5	81.7	85.9	76.9	80.2	
三		内容の理解を踏まえた音読の工夫	70.0	89.4	89.6	85.1	88.4	90.6	88.4	86.0	
四		ア	叙述を基に想像した読み取り(登場人物の人物像)	60.0	55.5	56.1	44.8	55.3	54.4	52.0	58.3
		イ	叙述を基に想像した読み取り(登場人物の人物像)	65.0	85.5	86.2	74.0	83.4	86.3	78.6	83.3
4	一	段落相互の関係	65.0	39.3	40.0	27.3	48.8	49.0	54.4	45.2	
	二	A	細部の読み取り(要約)	60.0	43.6	44.6	27.3	50.0	49.2	50.3	50.6
		B	中心となる語や文の読み取り(要点のまとめ)	65.0	46.6	47.2	35.1	52.6	51.6	48.6	56.0
		C	中心となる語や文の読み取り(要点のまとめ)	65.0	49.8	50.9	31.2	52.3	54.0	52.0	50.6
三		目的に応じた選択	55.0	41.2	41.3	38.3	35.9	40.0	34.4	32.7	
5		目的に応じた表現(観光地の案内)	50.0	51.1	51.7	41.6	55.0	50.2	58.5	57.7	
教 科 全 体			68.6	69.5	69.9	62.1	70.6	72.4	69.7	69.3	

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内		県全体		
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
91.1	90.7	93.7	92.0	88.8	89.5	92.4	87.5	88.6	90.1	90.4	89.1	89.6	89.4	90.6	89.9
82.9	84.3	84.6	82.1	75.1	82.8	79.9	86.0	83.2	81.5	81.8	80.3	84.3	85.2	80.9	83.3
88.2	87.8	89.9	87.0	89.5	84.3	89.6	82.3	81.8	78.5	79.9	73.0	84.7	83.3	90.0	85.1
99.5	99.4	99.7	100.0	99.6	99.5	99.6	99.7	99.3	99.9	99.8	100.0	99.5	99.5	99.7	99.5
99.2	98.9	99.4	99.6	100.0	98.4	98.2	98.2	98.6	98.6	98.2	100.0	99.0	98.9	99.7	98.9
94.2	94.2	93.4	95.0	94.2	93.9	92.6	95.6	94.0	95.7	96.1	94.2	92.9	93.4	91.1	93.9
73.5	75.0	73.3	72.9	67.5	79.3	81.8	79.2	77.7	73.1	72.7	74.5	80.3	81.0	77.6	78.0
65.9	66.6	71.1	64.1	58.5	73.6	74.6	74.5	72.5	58.3	58.5	57.7	76.9	76.8	77.4	71.0
76.0	76.9	79.6	72.1	71.1	79.3	79.4	75.3	80.9	77.2	79.3	68.6	80.6	80.2	82.0	78.1
32.6	31.3	41.8	32.1	28.5	23.8	22.9	27.5	22.8	25.5	27.1	19.0	31.7	31.2	33.4	32.2
71.1	71.3	75.5	72.5	63.9	76.7	74.1	74.0	79.4	76.2	77.2	72.3	70.6	70.7	69.9	72.9
48.0	48.0	53.8	42.0	47.3	52.2	49.0	51.9	54.3	53.7	51.5	62.8	44.3	45.9	38.1	49.3
86.7	88.9	85.8	82.1	81.2	88.5	91.4	87.5	87.1	88.4	89.7	83.2	87.1	87.3	86.5	87.3
95.3	96.3	96.5	91.6	92.4	96.3	96.8	96.1	96.0	96.0	96.6	93.4	96.0	96.1	95.6	96.0
72.3	73.9	72.6	70.2	66.4	75.3	75.1	75.8	75.1	76.4	76.5	75.9	72.3	73.4	68.0	72.9
70.1	71.7	77.7	68.3	55.6	74.5	79.4	68.1	74.1	65.5	65.8	64.2	68.3	67.9	69.6	69.8
40.4	42.1	47.8	33.2	30.3	47.9	51.7	40.5	48.7	43.0	43.5	40.9	38.1	37.0	42.0	41.4
62.4	62.4	73.0	67.9	45.1	57.9	57.8	65.5	54.8	61.7	62.6	58.4	58.1	57.1	61.9	59.4
87.4	87.3	87.1	87.4	88.4	85.2	82.2	87.0	86.2	84.1	84.5	82.5	86.8	87.1	85.7	85.4
89.4	90.3	87.7	87.8	88.4	89.6	89.1	91.7	89.1	89.5	90.2	86.9	90.2	90.4	89.5	89.5
59.7	60.5	58.8	64.9	52.3	58.7	60.0	61.6	56.7	60.5	60.6	59.9	57.2	56.8	58.9	57.5
86.1	87.2	85.2	88.9	79.4	86.9	86.9	86.8	87.0	85.8	85.6	86.9	86.8	86.8	86.5	85.9
39.5	37.9	39.6	49.6	37.9	43.7	48.5	39.7	42.3	38.4	38.7	37.2	39.9	39.5	41.3	41.2
53.5	52.9	58.5	69.5	35.7	44.5	44.3	40.5	46.4	45.1	47.1	37.2	48.8	46.1	58.9	47.7
50.1	50.1	48.4	52.7	49.5	45.7	41.4	45.2	48.5	49.4	48.7	52.6	52.6	51.0	58.7	49.3
51.8	51.7	48.7	53.1	54.5	53.7	55.4	53.8	52.7	51.1	50.1	55.5	54.7	52.9	61.2	52.3
39.4	39.4	42.1	39.7	36.1	39.5	39.3	39.0	39.9	34.2	33.3	38.0	38.8	39.8	34.8	39.0
55.0	58.3	49.1	56.9	44.4	57.5	58.6	54.3	58.2	56.4	56.5	56.2	58.6	59.3	55.6	55.4
70.0	70.5	71.9	70.5	65.1	70.7	71.1	70.2	70.6	69.1	69.4	67.9	70.3	70.2	70.9	70.1

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題 (10問)	通過率の低かった 問題 (10問)	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
話すこと・ 聞くこと	3	1一、1三		86.1	75.0
書くこと	1		5	55.4	50.0
読むこと	10	3二、3三、 3四イ	3四ア、4一、 4二A・B・C、 4三	60.7	62.5
伝統的な言 語文化と国 語の特質に 関する事項	14	2一(1)、2一(2)、 2一(3)、2五(1)、 2五(2)	2三、2四(2)、 2七(2)	74.4	72.9

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題 (10問)	通過率の低かった 問題 (10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
話す能力・ 聞く能力	3	1一、1三		86.1	75.0
書く能力	1		5	55.4	50.0
読む能力	10	3二、3三、 3四イ	3四ア、4一、 4二A・B・C、 4三	60.7	62.5
言語につい ての知識・ 理解・技能	14	2一(1)、2一(2)、 2一(3)、2五(1)、 2五(2)	2三、2四(2)、 2七(2)	74.4	72.9

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率 (%)	主な誤答(無答を含む)例 (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)
2三	32.2	60.0	4画目(68.5)、無答(2.0)、7画目(1.0)
2四(2)	49.3	65.0	無答(15.5)、hanadi(6.0)、hanapi・hanagiなど「di」以外の「bi」の部分の間違い(6.5)、「bi」以外の1音節の間違い(5.5)
2七(2)	41.4	50.0	オ(30.5)、エ(13.0)、イ(4.5)、ウ(3.5)、ア(2.5)、無答(1.5)
3四ア	57.5	60.0	無答(11.0)、本文からの抜き出し(8.0)、「自分のてのひらにのせてながめました。」(7.0)、「～感心してしまいました。」(2.0)
4一	41.2	65.0	7段落(16.4)、2段落(10.9)、8段落(10.4)、4段落(8.5)、3段落(7.0)
4二	49.8 (※A～Cの平均)	63.3 (※A～Cの平均)	A：4段落以外から要点を取り出している(10.0)、BC：4段落から要点を取り出している(32.8)
4三	39.0	55.0	アエ(完全誤答18.4)、アウ(15.9)、ウエ(10.4)、イエ(8.0)、無答(8.0)、アイ(4.5)

- 誤答の原因として、[2]三では、「希」の漢字の3画目を4画目と解答して誤答となっている児童が多かったことから、筆順が定着していなかったことが考えられる。
- 誤答の原因として、[2]四(2)では、無答と2音節以上の間違いが多かったことから、ローマ字の理解が十分でないことが考えられる。
- 誤答の原因として、[2]七(2)では、修飾語と被修飾語の関係を十分把握していないことが考えられる。
- 誤答の原因として、[4]一では、誤答が分散傾向にあったことから、文章のまとめ部分を「筆者が一番伝えたかったこと」と捉えられなかったことが考えられる。
- 誤答の原因として、[3]四アでは、紹介としてふさわしくない解答や無答、本文からの抜き出しの解答が合わせて、3割程度あったことから、紹介するという言語活動に十分慣れていないことが考えられる。また[4]二では、条件に沿っていない誤答が多かったり、更に[4]三では、パンフレットに無関係な内容や、既に資料で述べられている内容の資料を集めようとしていたりしていたことから、問題の意図を捉えていないことや、目的を踏まえて選択肢と資料との照合ができていないことが考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題としては、「話すこと・聞くこと」においては、話の中心や話し手の意図に気を付けながら聞くとともに、司会としての役割を理解し、進行に沿って話し合う力の向上が挙げられる。「書くこと」においては、書こうとすることの中心を明確にし、必要な事柄を集めたり、調べたり、整理したりして書く力の向上が挙げられる。また、「読むこと」の文学的文章においては、場面の様子や移り変わりに注意しながら、登場人物の行動や気持ち、登場人物の相互関係などについて、叙述を基にして読む力の向上が挙げられる。さらに、説明的な文章においては、目的や必要に応じて文章を読むこと、要点をまとめる力の向上が挙げられる。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導」においては、ローマ字を書く力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、「話すこと・聞くこと」については、何について話し合っているのかを適切に捉えさせ、自分の経験と結び付けたり、自分の考えと比較したりしながら聞くことや、司会としての役割を明らかにし、話合いの目的や方向性を捉えながら話合いをさせることが大切である。「書くこと」については、必然性のある場、実生活で生きる場の設定を工夫し、相手に伝わりやすい、ひき付けられる文の書き方や構成を考えさせたりすることが大切である。また、「読むこと」の文学的文章については、心情を表す言葉や会話、人物の様子から、人物像を適切に捉えさせたり、暗示的に表現されている情景などに着目して、登場人物の心情を豊かに想像して読ませたりすることが重要であるとともに、自分の経験と照らし合わせて物語の世界を感じ取らせ、感想や感動を大事にさせることも大切である。さらに、説明的な文章については、文章を利用するために、中心となる語や文の捉え方、それらを基にした要点のまとめ方を身に付けさせることが大切である。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導」については、ローマ字の中で間違いやすい文字を繰り返し書かせたり、日常使われている簡単な単語について、読んだり書いたりさせることが大切である。

指導例

自分の考えをまとめたり、意見を述べ合ったりする力を高める指導 ～単元名「校内環境週間でどんな取組をするか」～

【主な学習活動】

- 1 話し合いの目的を捉える。
- 2 話し合いの進め方と司会や提案者の役割について確認し合う。(話題と役割を決める)
- 3 各6人グループで話し合う。(15分×2回)
- 4 前半の15分の話し合いの後、途中経過を発表し合う。
- 5 意見を参考に後半の話し合いを行う。
- 6 取組についてのまとめを行う。

ポイント

- 話の内容に関心をもって聞き、自分の経験と結び付けたり、自分の考えと比較したりしながら話し合う。
- 話し合いの目的や方向性を捉え、互いの考えの共通点や相違点を整理しながら話し合う。

指導例

目的や意図に応じて書く力を高める指導 ～単元名「家族へ〇〇タイム報告会の案内状を送ろう」～ (案内状を書く・第3学年及び第4学年)

【主な学習活動】

- 1 自分の家族が、〇〇タイム報告会がどのような内容なのかを理解するためには、何をどう書けばよいのかを確認する。
- 2 自分の家族が、〇〇タイム報告会にぜひ行ってみたいと思えるようにするには、何をどう書けばよいのかを確認する。
- 3 さまざまな案内状から、案内するための「かぎ(キー)」を見つける。
◇「かぎ(キー)」5W1H…いつ(日時) ・どこで(場所) ・何を(内容)
・何のために(目的) ・どのように(方法) ・なぜ(理由)
- 4 自分の家族が、ぜひ行ってみたいと思える書き出しと結びを考える。
- 5 相手に合わせた言葉の使い方や文末表現を考える。

指導例

文学的な文章の登場人物の人物像をとらえさせる指導 ～単元名「〇〇(作品名)の登場人物をよく知ろう」～ (推薦文を書いて紹介し合う・第5学年及び第6学年)

【主な学習活動】

- 1 「推薦文」の内容を確認し、本単元の学習の見通しをもつ。
◇推薦文の内容…お気に入りの会話の抜粋、選んだ理由、登場人物の魅力(推薦文の中心)、登場人物についての感想
- 2 全文を通読し、どの登場人物を選ぶのかを決める。
- 3 登場人物のお気に入りの会話を選び、理由を書く。
- 4 登場人物の魅力を書くために必要な場面等を詳しく読み、推薦文の様式で書く。
- 5 登場人物についての感想を、自分の経験と照らし合わせながら書く。

- 6 完成した推薦文を紹介し合うための練習をする。
- 7 推薦文をグループの中で紹介し合い、互いに推薦文についての意見を交換し合う。

指導例

ローマ字を取り立てて学習する場面と適宜読んだり書いたりする場面を設定した指導

- 教科書をもとにして立てた年間指導計画に従って、次の指導のポイント a～c を参考に取り立てて指導する。
 - a ローマ字表を使い、規則性に気付かせる。
 - b 間違いやすい文字（bとd、aとd、hとn、nとmなど）を繰り返し書かせるような工夫をする。
 - c 濁音や拗音、促音などを繰り返し書かせるような工夫をする。
- 別の単元で、作品名や著作名、作者や著者などをローマ字で書かせる場面を設ける。
- 説明的な文章等で地名や人物名が書かれていたら、ローマ字で書かせる場面を設ける。

「活用」に関する問題についての課題としては、「読むこと」の目的や必要に応じて文章を読むことや書こうとすることの中心を明確にし、目的や意図に応じて内容に軽重を付けて書く力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、何のためにこの文章を読むのかという問（課）題解決的な学習を設定し、問題を解決するために複数の文章を準備して選択させたり、必要な情報を抜き出させたりする。また、本だけでなく、新聞や雑誌、広告など様々なメディアによる文章を活用した学習を行うことも大切である。

国語科だけでなく、他教科・領域等においても複数の図書資料等を利用させる学習や活動を意図的に行うことも重要である。

指導例

目的や必要に応じて文章を読み取る力を高める指導

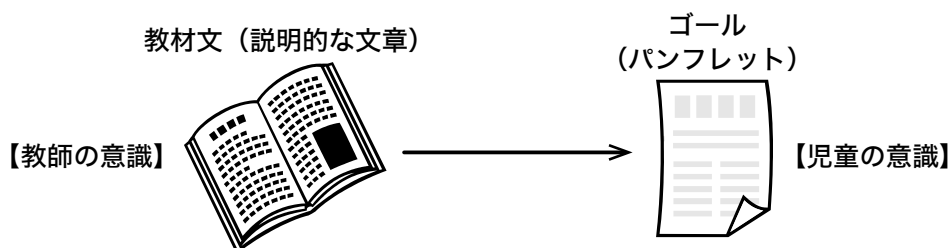
～単元名「読んだ本の紹介パンフレットを作ろう」～

（読んだ内容に関連した他の本や文章などを読む・第3学年及び第4学年）

教材文を無目的に読むのではなく、単元のゴールとしてパンフレット作りを設定し、その達成のために教材文を利用するという問（課）題解決的な学習を行う。

ポイント

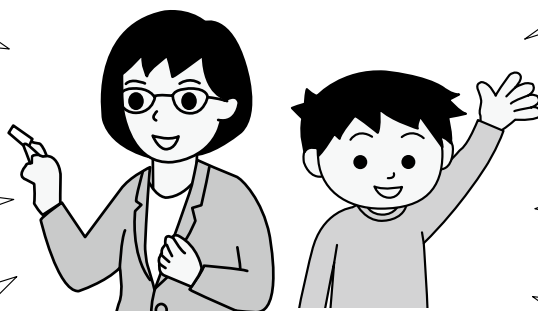
どんな力を付けるためにその課題を設定するのかを明確にし、学習活動を組み立てる。



パンフレットを作ることによって、要点をまとめる力を身に付けます。

そのためには、要点のまとめ方を指導する（指導しておく）必要があります。

単に要点をまとめる技術を身に付けるのではなく、それを実際に使う場面を設定しましょう。



パンフレットを作るためには教材文をよく読まなきゃ。

問いの文から、どんなことを説明しているのか（大事なことは何なのか）考えよう。

それぞれの要点をまとめて分かりやすくパンフレットに書こう。

指導例

目的や意図に応じて書く力を高める指導 ～単元名「ふるさとのガイドブックを作ろう」～ (事物のよさの紹介・第5学年及び第6学年)

【主な学習活動】

- 1 自分の紹介したい場所のよさが十分に伝わるためにはどんな情報が必要かを考え、情報を集める。
- 2 「誰にとっての」、「どのようなよさか」という視点で、自分が紹介したいと思う場所のよさを考える。
- 3 いろいろなガイドブックを見て、それぞれの特徴を比べ、誰に対して、どのような工夫をしているかを見付ける。
- 4 相手にとって分かりやすくするために、使うとよい言葉、割り付けの方法、載せるとよい情報を考える。
- 5 互いのガイドブックを読み合い、それぞれのよさを基に「賞」のネーミングを考える。

キ まとめ

内容・領域及び評価の観点からみた学習状況は、「話すこと・聞くこと」及び「話す能力・聞く能力」において、おおむね良好である。しかし、「読むこと」及び「読む能力」における文学的な文章の問題においては、登場人物の言動から、登場人物の気持ちや人物像を理解することについて、十分とは言えない。

今後は、登場人物の相互の関係、心情や場面についての描写などに注意しながら読み進める授業を行うようにしたい。

「活用」に関する問題については、不十分な点が認められる。特に「読むこと」において、目的に応じて文章を読み、要点をまとめることが十分とは言えない。

今後は、目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係等を考えて文章を読むことや、問（課）題解決的な学習を設定し、自分の考えを明確にしていく授業を行うようにしたい。